



理念

高齢期の方々の尊敬を踏まえ、こころ温まる医療の提供と地域から愛される病院を目指します。

基本方針

認知症疾患の特性を踏まえ、個別性の高い医療と温かみのある療養の提供
認知症に関する介護教育と啓発活動の充実
地域の医療・保健・福祉との一層の連携と協働
働きがいのある職場づくり
職員一人ひとりが自覚し、健全な病院運営への努力

患者様の権利に関する宣言

良質な医療を平等に受ける権利
選択および自己決定する権利
意識のない患者様および
法的能力のない患者様の権利
十分な説明を受ける権利
個人情報およびプライバシーを
保護される権利
個人の尊厳を守る権利
通信・面会を自由に行う権利

INDEX

- 表紙 福井の名所探訪 新緑の龍双ヶ滝(池田町)
- P2 院長就任にあたって
- P3 病院で過ごした「四半世紀」から
- P4 家族は今「家の誇りである母」
- P5 電子カルテ導入・診療体制の変更
- P6 トピックス 新人紹介・駐車場の新設について
- P7 新型コロナウイルス感染症によるお願い 令和2年度研修・講師派遣案内
- P8 令和元年度満足度調査結果報告



院長就任にあたって

院長 村田 憲治

長年院長職を務めて来られました伊藤達彦先生が退任されることとなり、令和2年4月1日付で福井県立すこやかシルバー病院院長の大役を拝命致しました、村田憲治と申します。院長就任にあたり、一言ご挨拶させていただきます。

私は、平成27年4月にすこやかシルバー病院に赴任し、今年で6年目になります。それまで、前職で9年ほど物忘れ外来での診療を行ってききましたので、認知症診療を専門的に行うようになって15年ほどになります。この間、認知症の原因となる病気については、現在最も多いアルツハイマー病を中心に、様々な知見が得られるようになってきました。日本では、1980年代までは、認知症の中では脳血管性認知症が最も多いと言われていましたが、1990年代には、欧米並みにアルツハイマー病が最多と言われるようになりました。そして、高齢化の進んだ現在、85歳以上の特に高齢の認知症では、単一ではなく、複数の原因が存在すると思われるべきという意見が増えています。このことは「アルツハイマー病のようだが、こっちの病気の特徴も持っている気がする」という自分が感じていた違和感を裏付けていると安心した反面、それだけ診断が複雑で難しいモノになったということでもあります。

また2013年には、それまでは2020年頃に300万人に達すると考えられていた日本の認知症高齢者数が、既に460万人を超えているという衝撃的な報告もありました。認知症は世界中で問題になっていますが、認知症高齢者が増えれば増えるほど、介護者の数もたくさん必要になるため、高齢化が進む日本においては、家庭内での介護者の心身の負担と施設における介護スタッフの不足、経済的な負担などの面で特に大きな問題となっています。

そのため当院では、通院治療では、外来診察による認知症の早期発見、早期治療開始と、デイケアによる認知症進行予防を、入院治療では、特に介護者の負担となる、被害妄想などのBPSD(行動心理症状)の改善を主眼に診療を行っています。認知症における認知面の治療においては、現在の抗認知症薬は、「アルツハイマー病の症状の進行を遅らせる」薬ですので、「症状が軽いからまだ早い」ということはなく、できるだけ早い段階で投与を開始することが重要です。そのためにも、少しでも気になることがあれば、まずは受診していただくと良いと思います。また、「人間は使わない機能は必ず衰える」ため、薬物療法と並行して認知リハビリを実施することも非常に重要です。当院デイケアでは、複数の看護師や作業療法士がチームで治療に当たっています(当院で行っているのは医療保険によるデイケアであり、介護ではなくあくまで治療です)。

また、入院治療においては、当院はこの数年で大幅な在院日数の短縮と在宅復帰率の増加を実現しています。これは、それまで御家族を悩ませていた行動心理症状を、それだけ短い期間で退院可能な状態に改善できているということになります。これは、もちろん医者だけではなく、病棟スタッフの専門知識に基づく看護・介護による所が大きいです。また、世界中で最も研究されているアルツハイマー病においても、2011年以来新たな治療薬発売の目処が立っていない状況ですが、行動心理症状は、従来からある薬を上手に使うことによって驚くほど改善できることがあります。

高齢化はさらに進行すると考えられており、介護が必要でも施設に入れない時代がすぐそこまで来ていますので、在宅介護が可能な状態をいかに保つかが非常に重要になっています。そのため、スタッフ一丸となって、更なる入院期間の短縮を実現すると共に、御家族が、安心して自宅に患者さんを迎えらるよう、医療の質のレベルアップを目指していきたいと考えています。

病院で過ごした『四半世紀』から

医師 伊藤 達彦



現在の世の中は、本当に大変だと思う。COVID-19の件を中心に世の中すべてが回っている感じである。治療薬の開発が喫緊の事と思う。同時に、やはり、これからは「ワクチン」が必要だと思う。これは、毒性を弱めた新型コロナウイルスを体内に投与し、それをB型細胞の一部が記憶し、免疫記憶細胞として働き、新たな感染が生じた時、素早く排除する仕組みにある。BCGも、その一つである。

さて、ワクチンというと、「アルツハイマー病(以下、ADと略)へのワクチン」という言葉が思い出される。これは、現在でも何とか？ 生きているかと思うアルツハイマー病のアミロイド仮説に起因するものである。これがマブ(mab)療法としてあり、抗体治療として今でも動いている。これらの動きは、1990年代の研究に由来している。余分であるが、この知見が最初に報告された頃には、ADの完治が期待されていたように思う。そして、今でも使われているアリセプトD®を中心とした抗認知症薬の開発は、1960年代の生化学的な基礎研究に由来している。

これらの両者の間には、30年間ほどの開きがある。もう一つ同様な間隔があるものとして、アルツハイマー病の診断基準でも、さる2011年に改正されたADの診断基準の件がある。最初のものは、1982年だから29年後に改訂されている。

現時点でもまだADへの根本治療は決定的なものは見つかっていない状況にあり、前述の二つの大きな流れを考えると、本疾患/症候群の治療についても大凡30年周期で新たなものが出現するのかもしれないと思ってしまうこの頃である。

さて、ここからは、平成7年(昭和70年)の5月15日(この時は、元栗田知事の選挙が関与)にこの場に来てから以降について、思い起こしてみたいと思う。元々、こちらに赴任の話は、

仔細は自分の中では曖昧である。どうも、大学の伊崎現名誉教授からのものの様に思われる。今迄、高齢の方々を対象にやってもいなかった人間がである。ある日突然、赴任指示のもと、前任地である旧県立精神病院からの移動であった。スタッフは、故辻幸江初代院長および村田一郎先生(現在、岐阜の黒野病院院長)および大学からの応援の先生方である。そして、看護師、栄養士と事務系等の総勢で多分に30数名程度かと思われる。最初に居たメンバーは、現在では、7名程度となっている。今迄の居残りは、2割弱のようである。当初は、「痴呆」という言葉が使われていた。懐かしいのは、旧清水町の啓発活動(スタッフ全員が参加)および福井市とのジョイント活動等が思い出される。ともに、大変だったが皆が一丸として動いた思い出として脳裡にある。いくつも悔やまれる面がある。当院の成り立ちの問題かと思うのだが、新たな事業を始めようとする底力が弱い一面があると常々感じている自分がそこに居る。

当初は、皆若かった。そして、燃えていたように思う(決して今がそうでないという事ではないのだが...)。

最後になるが、自身が赴任した時は43歳であった。今考えると、若いとつくづく思う。やっと、年齢的には、漸く眼前の方々と同じ視線でモノを云える年齢になったと思う。「この若造が何をいうんだ」と、言われるような年齢ではなくなった。そして、自分も、認知機能の問題に接するとつくづく感ずるようになってきている。このような自分であるが、今、暫し皆さんと付き合わせて頂く事をお許し下されば凄く幸甚と思う。

なお、令和2年4月1日より、村田憲治先生を新院長として当院のあらたな動きが始まっている。この体制での船出に対し、まわりの方々のこれまで以上の応援と病院スタッフ全員のさらなる奮闘を念じて筆をおかせて頂く。

伊藤先生は院長職を退任しましたが、引き続き診療は行います。

家族は今

家の誇りである母

Y・M



私は現在43歳ですが、この年齢でまさか母の認知症を目の当たりにするとは考えもしませんでした。私が子供の頃から、とっても働き者で体調が悪くても仕事を休むことなく、毎日一生懸命家族のために働いて助けてくれていた母でしたが、職場環境が変化したことをきっかけに、少しずつ様子が変わっていくのを感じるようになりました。母が56歳の頃です。

まず始めに感じたのは同じ事をよく話すようになったり、忘れものをよくするようになったりしたこと。この時は『忙しくて余裕がないのかな?』と軽く思っていました。日付や曜日も少しずつずれて話すようになったので、これはおかしいなと思って周りの方に相談したら『アルツハイマー型認知症かも。病院に相談してみたら?』と言われてこちらの院長先生や看護師さんにお世話になるようになりました。

始めは薬も弱く、症状もそこまでひどくはなかったのですが、私や兄の結婚・父の入院・愛犬の死など、環境が大きく変化するにつれて、一人で外には出れなくなったり、目を離すと迷子になってしまったり...と年々症状が悪化しました。毎日母のそばで介護してくれていた父もとうとう体力・気力ともに限界がきて、院長先生に相談させて頂いてから母の入院を決めました。認知症ながらも父のそばを離れ病院での暮らしは母にとっても精神的にさみしさがあるのでしょうか、食事や睡眠もまともに摂れず痩せました。それでも病院の懸命な治療と介護のおかげで少しずつ回復してくれているようです。

母の年齢が若いために今でも娘として『こうしとけばよかった』と悔やむことはたくさんあって悔やみきれないですが、だからこそ『今できること』を家族で協力して母を助けて恩返ししたいと思います。



電子カルテ導入しました！

当院は、2020年3月16日(月)より、電子カルテシステムが稼働いたしました。

電子カルテを導入することで、業務の効率化が図れ、患者様に接する時間の確保ができるなどこれまで以上の手厚い看護、医療レベルの向上が可能となります。また、システムの合理化により、外来診療における会計の迅速化が可能となり待ち時間短縮にも繋がると考えております。

患者様への医療サービスの向上の為、今後とも努力してまいります。

診療体制が変更となりました

令和2年5月より、福井大学医学部より はばた か い え 幅田加以瑛先生 が来られることになりました。それに伴い、下記の通り診療体制が変更となりました。



		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
村田	午前	再診	—	初診 (再診)	再診	初診 (再診)
	午後	初診 (再診)		再診		再診
伊藤	午前	再診	初診 (再診)	—	再診	再診
	午後		再診			
はばた 幅田	午前	—	初診 (再診)	再診	—	再診
	午後			初診 (再診)		初診 (再診)

伊藤先生は院長職を退任しましたが、引き続き診療は行います。

はじめまして



西病棟看護師 竹内克樹

4月に西病棟に配属となりました看護師の竹内克樹です。

以前もこの病院で勤務していましたが、一度退職し約2年間総合病院での勤務を経て再び復職しました。

一般病棟で勤務をしていましたが、基礎疾患の治療のために入院をしても認知症を患っている方は多く、改めて対応、ケアの難しさを実感しました。

今回、再び認知症専門病院である当院で勤務させていただくこととなり、さらに認知症ケアに対する知識を深めていきたいと思っています。患者様に穏やかな入院生活を送っていただけるように頑張っていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

駐車場が
増設
されました！

これまで病院東側の芝生の敷地は、研修の開催される日のみ駐車場として開放していました。しかし、混雑時には外来患者様や面会者様用の駐車場が不足していたことから今回、この芝生の敷地を駐車場として整備致しました。

外来患者様や面会者様は、これまでの病院前の来客用駐車場に加え、正面玄関より奥側の駐車場もお使いいただけるようになりました。研修参加者の方は、山側の駐車場に加え、新しく増設された駐車場もご利用いただけます。



新型コロナウイルス感染症による

皆様へのお願い

新型コロナウイルス感染症の拡大により、当院では以下の対応を行っております。

外来通院の患者様につきましては、来院時の手の消毒、マスク着用、体温測定にご協力ください。また、体調不良の場合は来院をお控えください。厚生労働省の指導により、一時的ではありますが電話による診察、処方を行うことも可能ですので、ご相談ください。

入院中の患者様につきましては、院内感染防止のためご家族様等の面会を制限しております。面会制限が長期化しているため、日時は限定されますが、今後タブレット端末を使用して患者様の様子を、画面を通して知ることが出来るよう対応していく予定です。

当院をご利用の皆様には感染防止のため、ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。なお、感染症の状況により対応が変わる場合がございますので、その際はご了承ください。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため3つの密（密閉、密集、密接）を避けてください。対応のポイントは、こまめに換気する、人との距離を十分にとる、密接した会話や発声を避けるです。



令和2年度 福井県立すこやかシルバー病院 研修、講師派遣のご案内

福井県立すこやかシルバー病院一般研修、専門職研修、講師派遣は、新型コロナウイルス感染症の影響により開催、派遣を見合わせております。

今後の状況により、検討をしてみまいりますのでご了承くださいませよう、よろしくお願いいたします。

令和元年度満足度調査の結果報告

皆様に満足していただける病院づくりを目指すため、患者様およびご家族の方を対象とした満足度調査を実施させていただきました。調査にご協力していただいた皆様におかれましては、大変貴重なご意見・ご要望をたくさんいただき、誠にありがとうございました。この調査結果を全職員が真摯に受け止め、今後皆様にご満足いただけるような病院づくりを目指し努力してまいります。

つきましては、下記のとおり調査結果をご報告させていただきます。

調査の概要

《調査目的》 患者様およびご家族の方へのサービス向上を目指すため満足度調査を行う

《調査方法》

対象者： 福井県立すこやかシルバー病院に通院・入院中の患者様とご家族

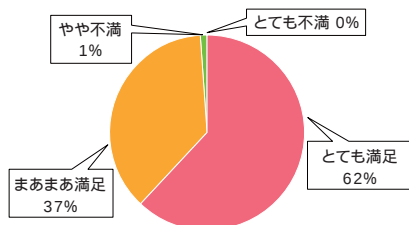
調査方法： 当院で作成したアンケート用紙を対象者の方に手渡しで配布、調査協力の得られた対象者から用紙を回収(無記名)して項目ごとに分析

調査期間： 令和元年9月1日～令和元年9月30日

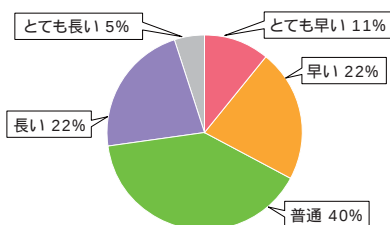
回収率： 外来100% デイケア72.5% 入院46.0%

外来に関する調査

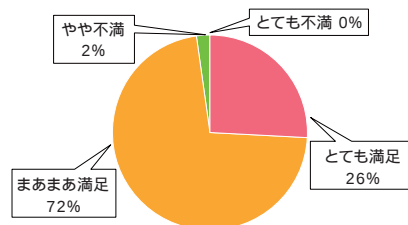
【診察の満足度】



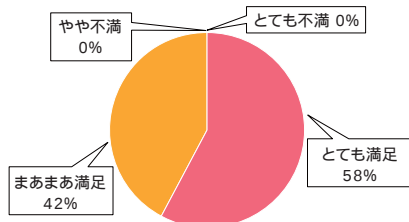
【診察までの待ち時間】



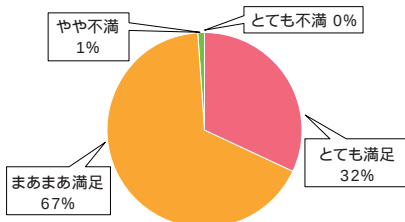
【待合室の居心地】



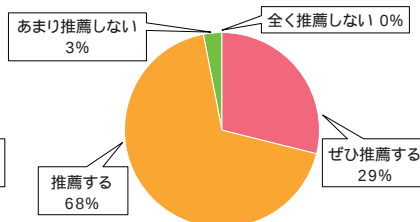
【職員の言動や態度】



【病院内の清潔度】

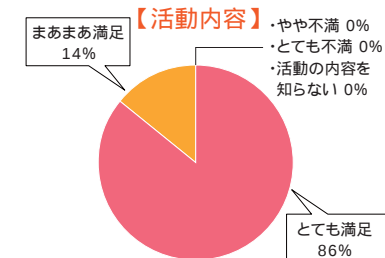


【当院を他の方に紹介したいか】

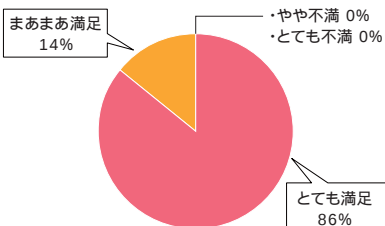


デイケアに関する調査

【活動内容】

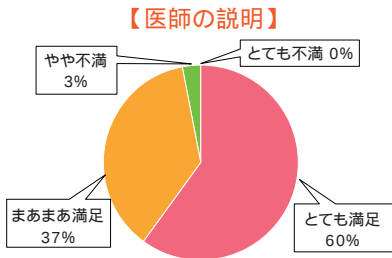


【言動や態度】

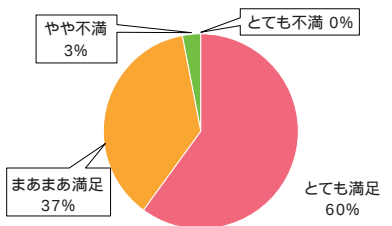


入院に関する調査

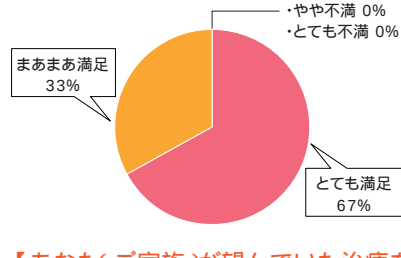
【医師の説明】



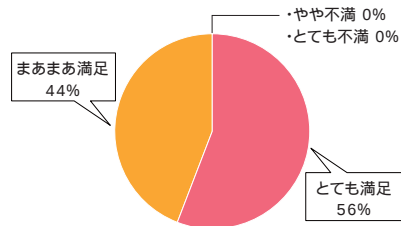
【看護師・介護福祉士等の言動や態度】



【安心できる療養環境か】



【あなた(ご家族)が望んでいた治療を受けているか】



これは、アンケート結果の一部です。他の結果につきましては、エレベーター横の掲示板に貼り出しております。また、寄せられたご意見・ご要望についての回答は掲示板下のファイルに綴じてありますので、病院へお越しの際にご覧ください。